

## 特別臨床セミナー アンケート結果

開催日時 会場	平成 25 年 10 月 31 日 (木) 9 時 30 分 ~ 12 時 30 分 東京都児童相談センター 6 階 大研修室
参加職員	児童養護施設職員 15 名 児童自立支援施設職員 10 名 自立援助ホーム職員 3 名 児童相談所職員 30 名 計 58 名

テーマ：「施設内暴力への対応～「トラウマを背負った子どもたちと心を通わせるには」  
講師：パトリック・トムリンソン氏（治療的施設ケア コンサルタント）」

< アンケートより参加者の感想〔抜粋〕 \* 回答数 44 >

< 研修の内容はどうだったか？ >	
「1」とても参考になった・・・	30 人 (68%)
「2」参考になった・・・	13 人 (30%)
「3」どちらともいえない・・・	0 人 (%)
「4」あまり参考にならない・・・	0 人 (%)
「5」まったく参考にならない・・・	0 人
	無回答・・・1 人 (2%)

- ・ 場に応じた話題の提供と伝えようとしていた姿勢。何よりも通訳の方のていねいな説明。
- ・ まず子ども同士の関係が施設職員間の影響であることや職員のケアが必要であることを強調されていたことに驚いた。別な側面から支援を見直すことができた。
- ・ イギリスでの取り組みを紹介してくれて、施設内虐待の調査から出された結果から施設をどう整えていけばいいのわかりました。
- ・ 体験から語られたとても貴重なお話だった。「言葉になる前のコミュニケーション」が印象に残る。  
ことばのやりとりでうまくいかなかったり、腑に落ちない経験に児の私を見たり、感じたりする感覚の過敏さがあるのでは？とちょうど感じた。自分の態度をいつも観察する目をどこかで持っていないとならないと思った。
- ・ 子どもと接するなかで時折子どもの要求に応えすぎることの不安や叱らなくてはいけないのではないかという義務感襲われることも多いので、今回の研修で子どもの願いを叶えることの大切さを再確認できてよかった。
- ・ ケアワーカー側の問題、子どもに与える影響について改めて考えさせられた。子どもの反応は大人 子ども間の相互作用であるということなどを痛感する。そこから支援システムの問題、施設の構造、人事の問題等も考えさせられる。
- ・ 共生の実体験が多く盛り込まれていて具体的でわかりやすかった。
- ・ 全体的にトラウマを抱える子どもと関わるための振り返りが確認できたこと、また、先生自身の体験に基づいたお話もうかがえたことがよかった。
- ・ 今、苦しんでいることのその先にあるべきもの、働きかたとか処遇が様々な苦労話の中から感じとれた。
- ・ コミュニケーションそのものと自分自身のことを振り返る時間が持てた。
- ・ 子どもと向き合う際の最も大事な心構えを教えていただけてよかった。通訳もわかりやすかった。
- ・ 大人がどのように対応するのか、職員間のコミュニケーションを子どもがよく見ているということがよく理解できた。

- ・ 施設職員側の子どもと関わるコツと仕事に対する姿勢が子どもに与える影響について考えることができた。
- ・ 英国での施設ケアでも、日本のケアワーカーと同じように子どもと向き合うことに困難を感じて日々ケアをしているのだと非常に身近に感じた。大切とされることは共通していることを実感した。
- ・ 昨年度乳児院でお話をお聞きしたことがあったが、今回も支援の基本、重要なことの見地を示していただきそこから現場の状況を見直してみると改善点とよい点が見えてくる。
- ・ 最初のスライドはひきつけられた。わかっていたが、観察・記録がとても重要で改めて大切さがわかった。子どもに接する前には職員の大人のあり方も重要であることをもう一度認識した。
- ・ 対子どもとのコミュニケーションの重要性だけでなく、大人同士のコミュニケーションの必要性についてもお話いただけでよかった。
- ・ トラウマを扱うことにこだわるよりは、まずは子どもたちの心に寄り添い、コミュニケーションを取れるような関係になることが大切なのだと思う。虐待のダメージは深刻で生物学的にも心理学的にも大きな影響を与えるのだと思った。子どもの行動観察を丁寧にするだけでも子どもの行動や意識が変わるといのはとても勉強になった。子どもに気をかける、注目の大切さを改めて知った。
- ・ 特別なプログラムなどでなく、施設の中で関わりというエッセンスが詰まった内容で、この内容が広がりを持って取り組んでいけるようにと思う。
- ・ トラウマを受けた子どもだけでなく、乳児院内で関わるすべての子どもに関わっていく上で必要なことが改めて考えさせられた。チームとして大人同士のコミュニケーションをよいものにするなど勉強になった。
- ・ 子どものために大人間で何をするかというテーマが自分の現在の臨床的なテーマと重なったためとても参考になった。
- ・ 施設職員が子どもに与える影響の大きさを痛感した。
- ・ 職員同士のコミュニケーションのあり方、チームの効果的あり方など現在の職場を考えるととてもよいきっかけになった。
- ・ 施設や一時保護所の研修などで伝えたい。何より先生のお人柄に触れ、ご自身の体験からのお話を聞けてよかった。
- ・ 原点に戻れて考えられるきっかけになった。特に発達段階を考える重要性を学んだ。
- ・ 普段の自身のコミュニケーションの取り方(子どもに対する言語的、非言語的、観察や注目、傾聴)について改めて振り返るよい機会になった。
- ・ 具体的な対応方法とその方法の根拠となる理論をわかりやすく話していただいてよかった。ペアレントトレーニングなどで、予測、予告の方法があるがなぜ必要か理解できてよかった。
- ・ トラウマを背負った子どもへの接し方の基本をきっちりとかつあたたかく教えてもらった。
- ・ 実践に基づいた内容で勉強になった。
- ・ 施設に入所する児童の特性が変化してきており、トラウマを背負った児童、発達に偏りのある児童が多くなってきているなかで、スタッフ間で「今までと違う」、「自分が行ってきた支援が通用しない」という声が多く聞かれるようになった。トラウマに対する支援は難しく、ケアワーカーと心理士の協働のために今回の研修で具体的な対応方法や施設の構造として必要なこと等を学べたことは今後の支援に大きくつながるきっかけになると感じた。
- ・ 職員同士の関係が子どもたちに反映するという話はとても興味深く聞いた。まず大人からというのは実は難しい所だと感じた。
- ・ 年齢に合わせて関わっていくのではなく、その子ども自身に視線を合わせて関わる必要があるのだと思った。
- ・ 組織の視点についてうかがえて新鮮だった。

#### <もう少し聞きたかったこと>

- ・ 「理性的に話す」ということだったが、話もうまく入らないような場合はどうしたらいいか、

- もう少し聞きたかった。
- ・ より具体的な技術やアイデア、アプローチの理論、ツールなどについて詳しくうかがってみたい。
  - ・ ト라우マを負った子ども達が成長していく段階について
  - ・ 基本的な姿勢に加えて実際のセラピーの内容等を聞いてみたい。
  - ・ グループのやり方やL S Wを具体的に聞きたかった。
  - ・ 感情のわからない子どもにどのように感情のことばを覚えてもらったらいいか、どうすれば難しい子どもをかわいらしい子と思ってもらえるのか。
  - ・ 発達段階に合わせた対応とは具体的にどうすればよいか。
  - ・ 里親支援について
  - ・ 学校との協力、学習支援について
  - ・ 施設職員をどのように支え、育てていくのか
  - ・ 教護院のような施設での話をもっと聞きたい。
  - ・ 職員自身の質を向上するにはどのようなことが必要か。